



学校だより

横浜市立朝比奈小学校

令和2年9月1日

第7号



「校長先生、1年生が途中で転んでしまいました」

校長 神田 敏之

ある朝、校門で子どもたちを迎えていると、転んだ1年生を連れてきてくれた子どもがいました。職員室まで連れて行ってもらうことを依頼し、けがの手当てをしました。

顔見知りになった異なった学年の子どもたちが、連れ立って登校してくることがよくあります。集団登校やおおぞら活動（異学年交流）を通して、他学年の顔見知りができるのが本校の特色です。昨年は下校時に風雨が強くなり、方面別に下校をしました。このときは、6年生が近所の1年生と一緒に帰りました。このときの1年生はきっと心強かったことと思います。今年度も状況に応じて同様の下校を考えていますので、ご承知おきください。

おおぞら活動では、6年生が1年生と決まったペアを作り交流をしています。この日は、2回目の交流でした。6年生は1回目の時の経験を生かし、1年生が楽しめるように計画を立てて臨みました。そのときの振り返りを紹介します。

- ・2回目の交流でうれしかったことは、1回目の交流よりしゃべってくれたことです。Aくんが恐竜が好きで、恐竜のことについて話したら、A君の方が詳しく知っていて、もうちょっと違う会話をしようと思ったし、恐竜についてもっと知ろうと思いました。がっかりしたことは、私の名前を覚えてくれていなかったことです。次は名前を覚えてもらって会話が弾むようにきちんと計画を立てて、がんばりたいと思いました。
- ・うまくできなかったことは、1年生の声が聞き取れなくて何回も聞いてしまったことです。自分が聞くのではなくて、理解してあげないといけないなと思いました。

これらの振り返りのように、うまくいったところもありますが、まだまだのところがたくさんあります。交流を深めるには時間がかかることがよくわかります。表面上の理解ではなく、「相手のことを思う」ということはどのようなことなのか、学びを深めているところだと思えます。

どの学年でも、このような下の学年のことを気にかける姿を見て、自分も上の学年になったら同じようにしようと感じられるようにし、本校の伝統にしていきます。

新型コロナウイルス感染症への正しい理解を ～文部科学大臣からのメッセージ(8月25日)より一部抜粋～

- 感染者に対する差別や偏見、誹謗中傷等を許さないということです。
- 身の回りに差別等につながる発言や行動があった時には、それに同調せず「そんなことはやめよう」と声をあげていただきたい。人々の優しさはウイルスとの戦いの強い武器になります。